

「神の賜物と召命」

(ローマ11・25〜36)

一、異邦人信徒への戒め

25節をご覧ください。〈兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほくはありません。〉とあります。異邦人キリスト者たちは、神はユダヤ人たちを退けて自分たちに目を留め、これからは自分たちを中心に事を進めて行かれるのだという、誤った自負心を持ち始めていました。ですから11章でパウロは、接ぎ木のたとえを語りました。イスラエルは神が栽培されたオリブであって、あなたがたは野生のオリブであると。さらに語ります。イスラエルは不信仰のゆえに枝が折られ、野生種のあなたがたがそこに接ぎ木されたのだと。なぜこんなことを語ったのでしょうか。それは、異邦人キリスト者への戒めのためです。高慢にならないためです。

二、再度神のご計画を語る

そのために〈奥義〉を語りました。〈奥義〉とは「秘密」のことです。それは、キリストを信じるすべての人に明らかになったもので、〈イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時

が来るまでであり、こうして、イスラエルはみな救われる〉というものです。よく注意して見てください。〈異邦人の満ちる時〉とあります。今は、異邦人がキリストであるイエスを信じて世界に満ちて行く時であると語っています。〈異邦人の満ちる時〉とあります。対して〈イスラエルはみな救われる〉と語られています。〈満ちる〉と〈みな〉のちがいに注目してください。今イスラエルの人たちは、周りからはユダヤ人と呼ばれ、ユダヤ教徒とも言われています。ほとんどのユダヤ人は、メシアであるイエスに対して、頑なに心を閉ざしています。

なぜなのでしょう。神のご計画のゆえである、とパウロは語ります。ですが、異邦人がイエスをキリストと受け入れる数が満ちますと、ユダヤ人はみな救われる、と語られています。ユダヤ人がイエスをメシア(≡キリスト)と信じる。しかも「多くの」ではなく「みな救われる」という姿を信じることはできません。想像するのは、むずかしいと思います。ですがパウロは、〈イスラエルはみな救われる〉と語っています。

何ゆえに、そう語ることができたのでしょうか。旧約聖書に書かれている預言に拠ります。26節のカギ括弧以降をご覧ください。〈11・26〉「こは、イザヤ書(59・20〜21)からの引用です。どういふことなのかと申しますと、パ

ウロが復活の主イエス・キリストに出会って以来、旧約聖書のことばの意味が啓示されたということです。覆いが取りのけられた、という意味です。

三、神の賜物と召命

ローマに興された教会の異邦人キリスト者たちは、神のご計画について誤解をしていたようです。旧約聖書の預言が成就するという視点がなかったからです。イスラエルはその不信仰のゆえに、惨憺たる歴史を担うことになりました。ですが、神の賜物と召命は取り消されることがありません。ということは、イスラエルは救われるということです。イエスをメシア(≡キリスト)と信じる時が来るということです。しかも「多くのユダヤ人が」ではなく、「イスラエルがみな救われる」のです。その理由が28節で語られています。〈11・28〉「ユダヤ人がメシア(≡キリスト)として現れたイエスを受け入れず、神に敵対しているのは、神に選ばれていない徴ではなく、選ばれている徴です。そのように見るべきある事を教えられます。ユダヤ人が救われないのは、神の時が来ていないからです。29節をご覧ください。〈神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。〉とあります。神は大きなご計画を持っており、それが変わることはありません。30節をご覧ください。〈あなたがたは、かつ

では神に不従順でしたが、今は彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けています。〉とあります。この聖句より考えさせられます。なぜ、異邦人たちがイエスをキリストと信じるようになったのか、です。偶然ではありません。神のご計画です。ただし、イスラエルがみな救われる時が来ます。31節です。〈11・31〉この、神の大きな計画だけは、だれも変えることはできません。今、世界情勢はどんどん混沌とした方向に向かって行っているように見えます。それは、私共が変えることはできません。また、変えなければなりません。ですが、神の大きな計画、すなわちイスラエルがみな救われる時が来るのは、だれも阻止することはできません。

四、神の知恵と知識の富

33節をご覧ください。〈11・33〉「神の道は極めがたい」は、「足跡を追跡して探し出す」の意味です。人がつけた足跡を探せば、おおよそその先のことと分かりますが、神が残した足跡は、足跡すら探し出すことはできないという意味です。そのことをパウロは、34節、35節で、イザヤ書とヨブ記から引用して語っています。〈11・34〜35〉神のことは理解できなくていいのです。そういう神を前にして、使徒パウロは語っています。36節です。〈11・36〉これは頌栄です。